



一法師 淳

電気通信共済会
会長

古代からのメッセージ

古代人からのメッセージを受け取るには、現場・現物・現実、当時の人々への想像力・共感がなくてはならない。

子どものころから、歴史、特に古代史に興味があった。小学生のころには家の近くの貝塚で縄文土器片や石器を段ボール箱いっぱい集めて親に叱られたり、松本清張の小説を読んで、即二泊三日一人旅で、飛鳥の石像遺物や古墳探索に出掛けたり、とにかく現地に行き現物を見て、当時の人々の思いを想像し、文字に残っていない歴史に思いを巡らせることが大好きだった。

通算8年間の関西勤務中、多くの古墳・寺社・遺跡を、特に奈良・大阪の古墳は数多く訪ねており、写真①は、1998年7月元大阪ガス役員の古代史同好の士と、飛鳥の古墳探索中。艸墓古墳（カマト古墳）石室内、家形石棺前で。

2021年現在はコロナ禍で海外に出掛けることができず、大変残念な状況だが、写真②③は、古代ローマ・ポンペイの2,000年前のパン焼き窯・石臼の前。②は1980年3月。

③は2018年8月。38年を隔てて同じ場所でのショット。いくつになっても同じことにこだわっている。世界のコロナ克服が待ち遠しい。

前の仕事、NTTファシリティーズでは新ビジネスとしてメガソーラーを中心とした再生可能エネルギー開発を強力に推進してきた。北海道から九州まで全国に、現地に足を運び、実態・周辺状況を見て、自治体、地権者、関係企業、近隣住民など多くの関係者の理解、メッセージを得ながら、いくつものプロジェクトを実現してきた。

歴史上のミッシングリンクを探す要諦と何も無いところから新たなプロジェクトを生み出すそれとはよく似ている。

昨年からは年金団体に仕事を変えているが、今度は投資家の立場で、再生可能エネルギー開発など本当にSDGsに貢献でき年金加入者の未来の生活に役立つ投資を拡大させたく取り組んでいるところである。



写真①



写真②



写真③